

## 陳 情

### 日本のベースロード電源は「水力発電」とすることについて

#### (願 意)

現在のベースロード電源は「原子力発電」となっておりますが、世界でも稀な日本の地形、気象を考えると「水力発電」へ政策変更するよう経済産業省に陳情すること。

#### (理 由)

1. 「水力発電が日本を救う」の著者である元国土交通省河川局長である竹村公太郎氏が著作の中で、戦後の高度経済成長期を支えた電力は「水力発電」です。当時の電力消費量を100とすると、現在は省エネの普及で50以下であること。

現在、日本には多目的ダム（水力、上水道、農業用）が898基、治水ダムが562基、合計1,460のダムがあるが、発電施設のないダムにも発電機を付けるなどちょっと手を加えるだけで、現在の水力発電の何倍もの潜在力を簡単に引き出せる。新規のダム建設は不要であり、この事実を日本に人々に伝えることが数少なかった「水力のプロ」としての私の義務であると述べられております。この著作は、元内閣総理大臣であった小泉純一郎氏や元国土交通省大臣であった石井啓一衆議院議員も既読です。

2. 日本は、世界でもまれな「地形」と「気象」でエネルギー大国であり、ノルウェー王国の水力発電は、電源構成比で95.3%を占めております。

また、水力発電は、天候に左右されず、必要な時に、必要なだけ発電できる再生エネルギーであり、燃料代ゼロの脱炭素の優等生です。

3. 千葉県内には、東電の火力発電所が千葉市、市原市、袖ヶ浦市にあり、新型コロナ禍よりも怖い「大量のCO2と粉塵」を毎日排出しており、県民の健康を害している事実をご承知でしょうか？風向きによっては船橋市内にも飛しょうしてきています。

4. また、高所へくみ上げた水を放水する「揚力式水力発電所」が全国に約40ヶ所あり、東電は、電力需給のひっ迫に直面したために、群馬県上野村にある揚力発電所（発電容量47万キロワットの発電機を2台備え、原子力発電所1基分の供給力がある）を稼働したとの新聞報道（2022年7月12日付、読売新聞掲載）がありました。

5. 福島県や千葉県銚子市の漁民が危惧している福島原発から放出される「処理済み汚染水」を利用した「揚力発電所」を建設する方法もあります。 以上

添付資料①：福島原発から放出される「処理済み汚染水」の活用方法 1部